

認定心理士の会から

ここでも生きてる認定心理士

私は普段大学教員として、心理職を目指す学生の養成に携わっています。養成カリキュラムのなかでは、学内での講義や演習を通じた知識や技能の習得に加えて、実際の臨床現場で実習をおこないます。そのため、実習を受け入れてくださる施設を訪問し、実習生の様子をお聞きすることもあります。

さて、ごあいさつにうかがう施設のスタッフの方から名刺をいただくときに、名刺の資格の欄に、「認定心理士」を書いておられることが実は少なくありません。もちろん、認定心理士は心理学の学力と技能を認定する基礎資格であり、職能に関する資格ではありません（別途業務に関連する資格をお持ちのことも多いです）。それでも、「こんなところで認定心理士を取得された方の活躍が！」と個人的にうれしく思っています。大学で心理学を学ぶなかで身につけ

られた基礎知識に加えて、認定心理士の会の企画での学びなどが、業務のなかでも活かされる局面が多くあるのではないかと想像します。

社会のなかでは、ほかの場所でも認定心理士の方のさまざまな取り組みがなされていることと思います。これに関連して、認定心理士の会では、「社会連携セクション」という企画を例年学会大会時に実施しています。この企画のなかでは「認定心理士として社会で実践していること」を認定心理士の方が発表されます。過去2回の開催のなかでは、臨床現場での取り組みはもちろん、ビジネスや教育にまつわる実践など、さまざまな発表がなされていたようです。今年度の企画ではどんな取り組みが発表されるのでしょうか？ 今から楽しみにしています。開催時にはぜひ皆様も足をお運びください。

（認定心理士の会運営委員会委員 前田駿太）

若手の会から

異分野間協働懇話会2022の 企画から開催までのプロセス

2022年3月に異分野間協働懇話会が開催されました。この懇話会は、若手間の交流を促進し、新たな研究や実践のあり方について議論を深めることを目的にした企画です。今まで、若手の会が主催しているイベントの開催の概要や報告などは目にするのが多かったと思いますので、こちらの欄をかりまして、イベントの企画から開催までのプロセスを少し紹介させていただきたいと思います。

まず、懇話会の目的の確認とそれを達成するためにどのような方法があるのか知恵を絞ることからはじまりました。今年の懇話会も新型コロナウイルス感染症の流行に配慮し、オンライン形式での開催となりましたが、どのようなオンラインツールを用いると、より活発な意見交換ができ、参加しやすさが向上するのか新しいアイデアを持ち寄りました。今回は、費用面や

ツールの知名度も考慮し、バーチャルオフィス空間（Gather）を用意しました。その空間の中では、バーチャル会議場で発表するブースが割り当てられ、参加者がブース間を自由に行き来できます。実際に参加したところ、オンライン上でも他の参加者と交流しやすく議論を深めやすかったのではないかと感じています。

さらに、この度、若手の会では、オンライン上でもコミュニケーションを活発にし、業務の効率化をはかるため新しくビジネス用のメッセージングアプリ（Slack）を導入しました。実は、私はこの懇話会の担当幹事ではなかったのですが、このアプリの活用により、活発に意見が交わされながら企画ができていく様子を見ることができました。このように、若手の会は心理学に関する研究や実践に取り組んでいる若手のアイデアに触れ、直に刺激を感じることができる。他にはないとても興味深い環境だと思っています。

（若手の会幹事 佐藤稔子）